

地域や人とながら

誰かを守れる人に――

各地区ごとに団員の構成は違いますが、大町分団に所属する
徳永徹さん(父)・拳也さん(兄)・亮介さん(弟) は親子そして兄弟で活動しています。
そんな徳永親子に消防団の役割や魅力、活動してみて感じたことなどを聞きました。

――入団したきっかけは。

徹さん(以下、徹) 叔父さんが分団長しよって、誘われてなんとなく入った感じですね。活動は火を消しに行くくらいかなと思ってました。

拳也さん(以下、拳) 親父の影響はあんまりなかったですけど、当時の分団長にやらんかって言われて。あと同級生もいたので、入りましたね。活動内容もなんとなくイメージはついてました。

亮介さん(以下、亮) ばくも兄と同じです。中学までスポーツやっていたので、体力的なところは心配はなかったですね。

――消防団の役割や魅力は。

徹 やっぱり市民の生命と財産を守ること。この一言につきます。

亮 自治会とか普段関わらない人とも垣根を越えて交流できるし、つながれることは魅力だと思います。

拳 確かに。消防団は人や地域のつながりを広げてくれる組織でもあります。災害とか起きたときに地域住民の顔を知っている、名前を知っているとかは、すごい大事。

――活動してみてもいいですか。

徹 平常時は消防車両の点検とか、火災予防運動での広報とか。火災



――大町分団――

とある
徳永 徹さん(62歳：26年目)

けんや
拳也さん(26歳：6年目)

りょうすけ
亮介さん(25歳：3年目)

は少ない地域なので、現場に行くことは少ないですね。

拳 入団したとき、親父が活動しているのもあって、団員とも打ち解けやすかったですね。仕事との兼ね合いもありますが、できるだけ参加しようと思っかけています。

徹 訓練や行事に参加するのは強制ではなく、出れるかどうかは息子たちが判断しています。でもそれなりに出てくれるのでいい感じやな。あと団員の高齢化と減少が課題。気負いせず、参加する中で楽しみを見出していけば。

亮 そう思います。実際やってみて、

自分で楽しさとかを見つけることが大切。ばくは入団しているだけで、人とながれてすごい楽しい。

拳 団員以外の人へ、団員から魅力とか伝えていくことも仲間が増えるきっかけになると思います。

――今後の目標は。

徹 定年が65歳。あと3年はがんばろうかなと思います。

拳 大町は生まれ育った場所でもありますが、必要と言ってくれるうちは、やり続けたいですね。

亮 自分と年の近い人に入ってもらうためにも、そういう環境づくりをしていきたいですね。



特集

地域を守るチカラ

防災の要として必要不可欠な消防団。
活動する団員は、仕事や家庭を持ちながらも、いざというときには消防隊員と連携し「西条市民のために」私たちを守ってくれます。
特集では、地域のチカラとして活動する消防団員の皆さんの熱い思いを紹介します。
※掲載写真の一部は撮影時のみマスクを外しています

消防団とは

消防本部や消防署と同じように、消防組織法に基づいてそれぞれの市町村に設置される消防機関。団員は、通常は自分の仕事をしながら、平常時・非常時を問わず、地域における消防防災のリーダーとして地域に密着し、住民の安全と安心を守るという重要な役割を担っています。近年では女性団員も増加し、一人暮らし高齢者宅への防火啓発、応急手当の普及啓発活動などで活躍しています。

西条市消防団の今

西条市消防団は、団本部、東支団本部(西条地域)と西支団本部(東予・丹原・小松地域)の下に28の分団で構成されています。団員の定数は、団長、副団長、団本部女性部、山岳遭難救助隊を含め、1,748人となっており、令和4年2月1日現在の実員数は1,518人(内女性15人)となっています。団員不足や高齢化などに伴い、今後は特に若手や女性団員の加入が課題となっています。

消防観閲式は開催中止

消防団員が一堂に会する消防観閲式は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、今年度も中止します。表彰伝達式を3月20日(日)に代表者のみで開催します。

表彰者一覧は、ホームページやフェイスブックなどでお知らせ。

▶問合せ

消防本部 TEL0897-56-0250



消防団ってどんなことしているの？

平常時の活動

- ①各種訓練（水防訓練・規律訓練・山岳遭難救助隊訓練など）
- ②救命講習会など応急手当の普及活動（AEDの使い方など）
- ③各地域の消火栓や設備の点検・確認など
- ④防災訓練の参加、火災予防運動や年末警戒運動での巡回
- ⑤各家庭への防火指導や設備点検、独居高齢者宅への訪問など

災害時

- ①消火活動（延焼防止や消防隊員の後方支援）
- ②大規模災害発生時の救助・救出、警戒巡視、避難誘導など



「いち早く現場に駆けつけ 地域を守れることが魅力！」

徳田地区で生まれ育ち、知人の紹介で消防団に入りました。入団前後では、消防団のイメージに変わりはなかったですね。

火事の現場には何回か行きましたが、初めてのときは何もできなかったのを覚えています。緊迫した雰囲気の中で、先輩方はテキパキ動いていて、自分も経験を積んでいかないといけないと思いました。

消防団の魅力は、地域に近いところ。火事が起きたとき、消防隊員より、消防団が先に現場に着くこともあります。火事などの災害は、一刻を争うことが多いからこそ、近くにいることは住民にとっても心強いのかなと思います。

台風のおときは、住民から土のうを家の周りに積んでほしいと依頼もありました。作業後にその人に「相談しやすくて、良かったわ」と言ってもらえたときは、とてもうれしかったです。何か起きたときに地域の助けになり、そして「ありがとう」と目の前で感謝してもらうことは、とてもやりがいを感じますね。

消防団はしがらみとを感じる人がいるかもしれませんが、団員同士で情報交換ができ、親睦や交流が深められるのはとても大きなメリット。横のつながりも増えます。団員として活動することは、自分自身が「地域を守っている」と実感できる貴重な機会だと思います。

普段の姿からチェンジ



近くにいる信頼される団員になりたいと意気込む宮田さん。普段はJ A周桑で営業活動を行う。仕事でも地域に密着し、活躍しています。

徳田分団

宮田 晋さん(6年目)

「いざ」というときに消防服を着れば 地域を守るヒーロー！

普段は自分の仕事をしながら、災害時などに備え・守る消防団員。

平成15年に発足した西条市女性消防団員の初期メンバーの山内由紀さんと、29歳から約6年間活動続ける宮田晋さんに消防団への素直な思いを聞きました。

「女性でも活躍できる。 イメージと違いました！」

女性消防団の入団募集をきっかけに「人のために何か役に立ちたい」と思い、入団しました。初めは男性と火災現場に行ったり、訓練したりするものだと思っていましたが、実際は消防に関する大型紙芝居やカルタなどを作って、子どもたちに紹介するなど、広報や啓発活動が主でした。昔から人前で歌ったり話したり、周りの人を笑顔にすることが好きな私としては、とてもやりがいを感じましたね。

消防署員と一緒に、小・中学校の先生にもAEDの使い方などを指導するときもあります。指導時は距離が近いので、受講している女性に男性が教えるのって、少し抵抗がある

んですよ。でも私たち女性団員が指導することで受講者から「分かりやすく丁寧に教えてもらえて良かった」と言われたときは、すごくうれしかったし、こういう「守り方」もあるんだと実感しました。

応急手当指導員や防災士資格の取得など、団の活動はスキルアップにもつながっています。また取得後、誰かに教えて生かす機会も。講習会を任せてもらえることもあり、すごく自信になっています。

現在、西条市の女性団員は定数の半分の15人。いつかは女性部だけで講習をして、指導できるようになりたいですね。そして多くの人に女性団員を知ってもらいたいです。

普段の姿からチェンジ



子どもと触れ合うことが好きな山内さん。普段は東予北地域交流センターの職員として働く。児童部門で読み聞かせや親子料理教室などを行っています。



山内由紀さん(19年目)

団本部



topics

あなたの力が必要です！ 消防団員を募集中！

市内の団員数は減少傾向にあります。団員の減少は、地域防災力の低下につながり、いざ災害が発生したときに、地域の安全を守ることが困難になります。地域や人を守るためには多くの力が必要です。「守られる人」から「守る人」へ。消防団員としてあなたの力を貸してください。

▶入団資格 市内に在住または勤務する18歳以上の健康な方

▶報酬など

年額報酬（数万円程度）や災害活動や訓練に出動した際の出勤報酬（一回当たり数千円程度）などを支給します。一定期間以上勤務して退団した際には、退職報償金を支給します。

※消防団活動に必要な被服などは貸与します

※入団方法など、詳しくは問合せ先までご連絡ください

▶問合せ 消防本部 総務課
Tel.0897-56-0250



消防団のことをもっと知ろう！

○消防団オフィシャルウェブサイト（総務省消防庁）
消防団員の活動内容のほか、著名人によるPR動画や現役団員インタビューなど、消防団員の魅力を紹介しています。



詳細は▼

○西条市消防団ホームページ

西条市消防団の年間行事計画や、活動レポートなどを掲載しています。



詳細は▼

地域を守るチカラが必要
現在は1518人の団員が「自分たちの地域は自分たちで守る」という思いで日々活動しています。しかし、近年の少子高齢化や山間部を中心とした過疎化の影響で、20～30代の若い世代の団員減少が大きな課題となっています。サラリーマン団員の増加など、団員確保のハードルは年々高くなってきています。
消防団では現在、団員の処遇（報

酬額や支給方法など）の見直しや団員の負担軽減など、活動環境の改善に取り組んでいます。消防団活動は「やりがい」のある活動です。特に女性や若い世代の方に参画してもらい、一緒に地域を守る「チカラ」になってくれるとうれしいです。
団員は熱いハートを持って、活動しています。今後も消防隊員や地域の皆さんと一緒に協力しながら地域に信頼される組織でありたいです。

「守る」思いをいつまでも

入団して31年、団長には2年前に就任した高橋公一さん。

西条市消防団をまとめる団長として、消防団の重要性や今後への思いを聞いてきました。

これからも地域を守り、地域に信頼される消防団を目指します。

「備える」ことが団の役割
入団して31年が経ちました。先輩たちから教えられた「地域を守る」気持ちや、消火活動の基本は変わっていませんが、消防団を取り巻く環境は変わってきています。消火活動だけではなく、地震や台風などに対する、防災活動へのウエイトが大きくなってきていると思います。
消防団には、何か起きたときに人を集めて対応する動員力や、いかに早く初期対応できるかという即時対応力といった特殊な力が必要。地域防災の中核として、いつ起こるか分からない大規模災害への「備え」が団としても非常に重要です。いざ

災害が起きたとき、何もできないのでは意味がありません。地域のことを知る消防団は、地域における「共助」の一翼を担う組織として、今後ますます重要になると思います。
団長として、団を指揮することはもちろん重要な任務ですが、目前の災害への対応力を維持し、先輩たちが築いてきた伝統を守りつつ、自分の目指す、地域を守りつづける「消防団の任務」と「団員の安全の確保」の両立にはこだわっていききたいと思っています。そして、活力ある団員がやりがいを実感できる消防団を目指していきます。



西条市消防団
団長 高橋公一さん(31年目)